

❖保健研究センター6月だより ～時季外れの感染性胃腸炎～❖

感染性胃腸炎は、例年晩秋から流行し、冬季にピークをむかえ春季には沈静化しますが、今年は4月に入ってから胃腸炎集団事例が県内で多く発生しています(表)。また、例年と比較すると感染性胃腸炎患者の定点当たり報告数は高い水準で推移していました(「❖注目疾患の動向❖」参照)。そこで、ウイルス・疫学情報担当では、2014年4月から5月にかけて発生した胃腸炎集団事例の原因ウイルスについて一部遺伝子解析を実施しましたので解析結果を報告します。

当センターで胃腸炎集団事例の原因究明のための遺伝子検査を実施した結果、この時期としては多い12事例からウイルスを検出しました。検出したウイルスの内訳はA群ロタウイルスによるものが2事例、ノロウイルスによるものが10事例です。

A群ロタウイルスの2事例は遺伝子解析の結果、いずれもG2P[4]型で通常の病原体サーベイランスでは発生頻度の低い型であったことが判明しました。

一方、ノロウイルスはGIによるものが1事例、GIIによるものが8事例、GIとGIIの複合が1事例となっています。遺伝子解析の結果、これまであまり検出されることがなかったGII/6によるものが6事例と最も多いことが判明しました。最も発生頻度が高く、過去に何度も大きな流行をもたらしたGII/4は、この期間は2事例に留まっていました。

以上の結果、A群ロタウイルス、ノロウイルスとも通常の流行時には発生頻度の低い遺伝子型のウイルスが今回の調査期間中は主流であったことが判明しました。A群ロタウイルスはワクチンが2011年以降我が国で導入され、ワクチン導入後に検出した市中流行株の情報からワクチン導入の影響をみるため、またノロウイルスは新たな亜型(特にGII/4)の発生によって大きな流行が発生することがあるため両ウイルスの発生動向に注視し、迅速な注意喚起に繋げていきたいと考えています。

感染症の流行予測には平時の病原体サーベイランスによってベースとなる情報の蓄積が重要です。病原体定点医療機関の先生方には、引き続き検体採取のご協力の程よろしくお願い申し上げます。

表. 病原体ウイルスを検出した集団事例一覧

発生日	発生施設	検出病原体
4	保育園	A群ロタウイルス G2P[4]
4	保育所	ノロウイルス GII/6
4	保育所	ノロウイルス GII/6
5	飲食店	ノロウイルス GII/4
5	養護学校	ノロウイルス GI、GII/4
5	小学校	ノロウイルス GII/2
5	小学校	ノロウイルス GII/6
5	小学校	A群ロタウイルス G2P[4]
5	幼稚園	ノロウイルス GII/6
5	小学校	ノロウイルス GII/6
5	幼稚園	ノロウイルス GII/6
5	小学校	ノロウイルス GI/5

こちらのホームページも参考にご覧ください。

〈厚生労働省ホームページ〉 ノロウイルスに関するQ & A

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

〈厚生労働省ホームページ〉 ロタウイルスに関するQ & A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/Rotavirus/>



(ウイルス・疫学情報担当)

保健研究センターだより 平成26年 6月